西条南中学校区
N
JR加茂川橋梁 23
うちぬき公園 26
東光の石灯籠 24
神戸公民館
25
木喰五行弁財天尊像
文
神戸小学校
11
いしづちやま
橘新宮神社 29
湯の谷温泉 28
第64番札所
前神寺 27
30
高峠城跡
釜之口井堰 13
市倉のかきのき 31

旧西条市
体育館 22
市民公園 22
サラサラ川 20
11
登道の
五輪さん
1 伊予西条駅
2 いよさいじょう
今井家の
旧日本刀
鍛錬場 3
21 中町小川の
お不動さん
文
大町小学校
4 楢本神社
5 真鍋嘉一郎旧邸
6 関行男慰霊の碑
大町公民館
松山自動車道
西条南
中学校 文
7 西條神社
8 日野暖太郎和照
13 朝潮太郎石碑
（西条東中学校区）
金剛院 17
常福寺 19
18 加茂神社
産業祭り 16
メロディー橋 9
15 西条農業高校
第二体育館
武丈公園 10
11
いもたき
14 八堂山
12 武丈釜の口
40 土居構跡
194
11
13 トリム公園
41 中野地区の
石垣と石畳
39 真導寺跡
35 伊曽乃神社
36 伊曽乃大社祭礼略図
37 与州新居系図
38 中野のタラヨウとナンテン
32 保国禅寺
33 木造仏通禅師倚像
34 保国禅寺庭園
市之川公民館
市之川鉱山跡 43
42 津越の滝

西条南中学校区
N
加茂公民館
194
44
千町の石積千枚田
45
加茂川水源の森
46
大福寺と荒川八幡神社
47
お岩屋さん
48
迫門橋

49
広域基幹林道
加茂角野線
50
止呂峡と止呂橋
下津池の棚田
51
52
風穴と薄雲姫の墓
53
チロルの森
55
大樽の滝
中之池橋
谷川渓谷
54
56 平松の水
57 旧寒風山トンネル
58 新寒風山トンネル

上の原のウスギモクセイ 59

60 黒瀬湖

60 黒瀬湖周回散策路

旧大保木小学校跡の
ソメイヨシノ 61

63 極楽寺と石段

第60番札所
横峰寺 1

67 シャクナゲの森公園

石鎚ふれあいの里
64

大保木公民館
（65 カズラ細工）

66 千野々橋

62 治兵衛堂

68 三碧峡渓谷と
河口橋
70
大宮橋
石鎚スキー場と 69
スノーカーニバル
71
森林軌道跡

1 伊予西条駅

大正10年の開通当時そのままの形の給水塔やカーバイト庫他煉瓦造の鉄道遺産群は、県内ではここにしか残っていない貴重な近代化遺産の一つ。蒸気機関車が走り、西条に機関区があった頃は、西条で給水し石炭を積み、乗務員が交代していた。伊予西条駅はまさに四国鉄道交通の拠点で、松山の次の急行停車駅が西条であった時代もあった。
また、駅のプラットホーム内には「うちぬき」があり、訪れた人に西条の美味しい水をふるまうことができる。

伊予西条駅の給水塔

2 登道の五輪さん

登道交差点から少し西へ寄った所の石垣の中に、古い五輪塔が祀られている。
天正13年（1585年）、羽柴秀吉の四国進攻の命を受けた小早川隆景3万の軍勢が、長宗我部元親を討つべく伊予に上陸。東予地方では金子備後守元宅（もといえ）を総大将に約3千の兵がこれを迎え撃った。徳常寺の任瑞和尚は、禎祥寺（喜多川の観音さん）の林瑞和尚とともに華々しく寄せ手の軍勢と戦ったが、両寺は焼失し、相次いで戦死した。時に天正13年7月17日。任瑞和尚の死を悼み、徳常寺の境内の一角に葬り、この五輪塔を建立した。

伊予西条駅プラットホームのうちぬき

3 今井貞重と今井家の旧日本刀鍛錬場

本名今井清見。大正12年大町に生まれ、昭和13年から父である刀匠・今井貞重（本名竹重）や人間国宝高橋貞次に師事し、鍛刀一筋の道を歩み、昭和50年西条市指定の無形文化財。別称、鉄心入道平貞重。
今井家の日本刀の鍛錬場は昭和初期の建築で、作業場や焼入場などが刀鍛冶用の道具類とともに残っている。換気用の越屋根が象徴的で、城下町西条の風情を今に残す。
近くには、川原家の土蔵が存在感を示す。

4 楢本神社

旧大町村の村社で、常心にある。祭神（さいじん）は素戔嗚命（すさのおのみこと）、大国玉命（おおくにたまのみこと）、八千戈命（やちほこのみこと）。常心原が開拓された頃、鎮守の神として祀られたと思われる。
境内には、「神風特攻敷島隊」の関隊長以下の慰霊碑があり、「内科物理療法」の草分け・真鍋嘉一郎の生家も移築されている。

楢本神社

真鍋嘉一郎の生家

5 真鍋嘉一郎

真鍋嘉一郎は明治11年旧大町村に生まれ、苦学して東京帝国大学医学部に進み、ドイツ留学を経て、レントゲンやラジウム、電気などを利用する「内科物理療法」の草分け的な存在となった。「医学の最終の目的は患者を治すことだ」という哲学に徹し、「外来の真鍋」とも言われた。浜口雄幸首相など多く著名人の主治医としても知られている。特に、松山中学時代に師弟関係にあった夏目漱石の最期を看取ったのも彼といわれる。ドイツ時代に知り合った野口英世との親交も深いものがあった。
現医師会館にレリーフが残されている。生家は生誕百年を記念して、昭和53年に楢本神社に移築された。

関行男慰霊の碑

6 関行男慰霊の碑

太平洋戦争末期の昭和19年、多数の戦艦を失い、戦略的に無力となっていた日本海軍は、爆装した零式艦上戦闘機を駆って、米軍航空母艦に突入する、いわゆる、神風特別攻撃が中心となっていった。
その特別攻撃は、西条市出身の関行男大尉（戦死後2階級特進で中佐）を隊長とする「神風特別攻撃隊敷島隊」に始まる。関氏とともに散華した5名は楢本神社の境内に祀られ、慰霊の碑が建てられた。毎年10月の命日には、盛大な慰霊祭も行われている。今の日本の繁栄と平和は、彼らの郷土愛と犠牲の上に築かれたものであることを忘れてはならない。

西條神社

7 西條神社

寛文10年（1670年）松平頼純（よりずみ）の初の西条入りに際して、神祖・徳川家康公、紀州藩徳川頼宣、歴代の西条藩主を祭祀するため、石鉄山蔵王権現の北に「西條東照宮」を創建した。
版籍奉還後の明治5年に、西条県藩知事・松平頼英（よりひで）が「西條神社」と改称し、町内の人々の奉仕を得ながら、現在地に、城郭に模した社を遷宮した。明治6年、全国社格制定により、大町村村社と定められた。明治27年には旧新居郡鎮座の5社のうちの一つとして、県社に昇格した。
社宝として、徳川家康公御馬印、智月院（西条藩9代藩主松平頼（より）学（さと）の正室）御駕籠、勝海舟筆の「東照宮」、山岡鉄舟筆「西條神社」の神号額など。

8 日野暖太郎和煦（ひのだんたろうにこてる）

西条藩士岡田氏に生まれ、後に日野藤右衛門好古の養子となる。天保7年、9代藩主頼学（よりさと）の命により、郷土史の名著『西條誌』20巻を編纂した。西条藩内70箇村（旧西条市36村、旧東予市3村、新居浜市16村、旧土居町9村、旧伊予三島市4村、旧川之江市2村）の様子を詳細に調査している。

9 メロディー橋

かつて、この場所には「一銭橋」と呼ばれる木製の橋が架かっていたが、台風のシーズンにはよく流され、地域の人が困っていた。昭和58年に鉄筋コンクリート製の橋が架けられた。そのとき、橋の欄干に鉄琴を取り付け、順番にリズムよく叩いていくと、「さくらさくら」や「ふるさと」のメロディーを奏でることができるようにした。正式な名称「伊曽乃橋」より「メロディー橋」の愛称で市民に親しまれている。

メロディー橋

10 武丈公園

春の花見、夏のキャンプ、秋のいもたきや鮎釣り、どの季節も楽しめる散策路として市民に親しまれている。特に、桜の名所として有名。加茂川の清流、遠くに見える石鎚山、背後に迫る標高197ｍの八堂山に心癒される。メロディー橋から見る武丈公園は特に素晴しく、「四国の嵐山」とも称される。
もとは、明神木村の庄屋・加藤定右衛門が天保6年（1835年）に、福武村井の口にあった桜を釜の口付近（大町・福武用水の取り入れ口）に移し、八堂山下の景勝地に風致を添えようとしたことに始まるといわれる。定右衛門は風流の心が深く、俳句を能（よ）くし、俳号を「武丈」と称していたことから、現在の「武丈公園」、「武丈桜」となった。
山頭火や芭蕉の句碑、日野三楽（良之助）の彰徳碑、「釜の口の石ぶみ（田中喜兵衛）」などもある。

武丈公園の桜

11 いもたき

暑さの残るお盆の頃から秋祭りの頃まで、加茂川の河川敷や武丈公園などで「いもたき」が行われる。サトイモ、コンニャク、肉にトリ貝…家族やグループでわいわい賑やかな宴が繰り広げられる。近隣の市からも多くの人が集まるようになり、加茂川の秋の風物詩としてすっかり定着した。
旧東予市の中山川河川敷（周布地区・吉田）でも行われている。

いもたき

12 武丈釜の口　田中喜兵衛

第1次西条藩3代藩主一柳直興（なおおき）治世の大町組大庄屋・田中喜兵衛は、武丈釜の口の普請で知られる。釜の口とは、川水の取入口のこと。工事の完成により、多くの良田が開かれ、300年後の今日に至るまで付近の農業用水の利便を得ている。

釜之口井堰

13 トリム公園周辺の桜と釜之口井堰

武丈公園の対岸・トリム公園（加茂川河川敷）の桜並木も見事で、花見シーズンには武丈側に劣らないほどの賑わいを見せる。
その上流約500ｍの所に、釜之口井堰（頭首工（とうしゅこう））がある。築造は古く藩政の昔におよぶとされるが、その起源は明らかでない。井堰は加茂川が山間地域から平野へ移行する境目の西条市中野釜之口に造られ、堰き止められた水は堤防下に潜導され、幹線水路や支線水路を通じて、神戸地区と橘・古川地区一部の加茂川左岸の田圃（約400ha）を潤すとともに、防火用水の役割も果たしている。

市民の森の梅

14 八堂山界隈

弥生時代の人たちの生活の根拠地であったといわれる、標高197ｍの八堂山。
ここにはゆっくり歩いて約30分の登山道があり、春の桜とウグイス、夏のセミしぐれ、秋の紅葉など一年を通して楽しめる。市民の健康増進になくてはならないウォーキングコースである。
さらに、加茂川の清流沿いを、西條神社、楢本神社、メロディー橋、伊曽乃神社、船形橋と経て、市之川へと通ずる延長6㎞のコースもあり、多くの愛好家がウォーキングを楽しんでいる。
考古歴史館には、八堂山遺跡からの出土品を中心に、市内各遺跡からの出土品を展示している。
山の東斜面には市民の森があり、特に、約20種類、1,000本の梅が見事で、2月中旬の梅祭りの頃には多くの市民で賑わう。市街地を一望できる絶好のスポットでもあり、多くの市民に愛されている山である。

西条農業高校第二体育館

15 西条農業高校第二体育館

大正9年の木造建築で、基礎部には煉瓦積の上に花崗岩を使用している。県立西条農業学校が設立した翌年、講堂として建設され、高校の建物としては県内では2番目に古い。今も卓球場として使用されている。

16 産業祭り

産業祭りの始まりは県立西条農業高校の農業祭だが、今では、市民や農業団体が参加し、大規模なものになった。毎年11月に開催され、市内外の商工業者の物品販売や高校の生産物の販売・展示など、多彩な催しになっている。

産業祭り

17 金剛院の山門と七重の石塔

金剛院、仏生山光明寺。本尊は不動明王で、創建は保元年間（1150年頃）といわれ、八堂山にあったとされる。七堂伽藍の上に不動堂を建てたことによって、「八堂山」の名がついたと伝えられている。

天正の兵火で全焼。第1次西条藩3代藩主一柳直興により、万治2年（1659年）本堂が再建され現在に至る。今は、市民の森の登り口の所にある。

山門の建築様式は和様を主とし、単層入母屋造り一軒、半繁垂木、本瓦葺の四脚門。また、山門には小松藩3代藩主一柳直卿の筆による扁額「仏生山」が掲げられている。七重石塔は総高322cmで、鎌倉幕府3代将軍源実朝の供養塔といわれ、石造美術品として、昭和29年に愛媛県の有形文化財の指定を受けている。境内には、大銀杏や高橋貞次（大町常心生まれ、刀鍛冶人間国宝）の墓などもある。

金剛院の七重石塔

18 加茂神社

元福武村社で、賀茂郷の氏神で孝謙天皇の勧請と伝えられる。祭神は、加茂別雷命及びその母・玉依姫命と母の父・神賀茂建角身命の3神を祀る。神社入口階段を登って左に「こんぴらさん」が祀られており、讃岐の金比羅宮を分社したもののようである。

加茂神社

19 常福寺

山号を多宝山という。もとは伊勢国神戸にあった。開祖から18代を経て、桂林和尚の時に神戸の領主一柳直盛が西条に転封となり、これに従って寺も西条領内に移した。一柳家の菩提所とされていた。

20 サラサラ川の清流

天皇泉から馬渕川、水車の渕を経由して界谷川に流れる“サラサラ川”は、街中の小さな川であるが、地域住民の努力もあり、豊かな水量ときれいな水質を保っている。清流にしか棲まない鮎がいるほか、錦鯉、オイカワなどの淡水魚がたくさん棲んでいる。
特に、旧西条市の市の鳥であったカワセミを間近に観察することができる絶好のポイントである。この自然環境は市民ぐるみで守っていかなければならない。

中町小川のお不動さんの彫刻

21 中町小川のお不動さんの彫刻

旧こんぴら街道沿いにこのお不動さんがあり、本堂の向拝（ごはい）に見事な彫刻物がある。懸魚（げぎょ）は「鳳凰に雲」、蛙股（かえるまた）の正面に「獅子に牡丹」横面に「虎に竹」「龍に雲」など。
これらは堂宮彫刻師・近藤泰山の作である。泰山は土居町（現・四国中央市）の人で、その腕前を見込まれ、第1次だんじりブームの大正末期から昭和初期にかけて、多くのだんじりを彫刻した。「泰山七だんじり」として有名。旧市内には、極楽寺蔵王堂の「龍、鷲、獅子」等、妙昌寺の稲荷堂本堂拝殿の「狐、龍、飛龍」、嘉母神社拝殿の「鶴」「龍」の扁額の彫刻など、数多くの作品が残っている。県内外では、150件も発見されているとのこと。

市民公園の十河信二像

22 市民公園・十河信二像と旧西条市体育館

鷹丸町にある市民公園は、桜・銀杏・メタセコイヤ等の樹木が良く茂っており、四季折々に楽しませてくれる。
その木立の中には、“新幹線の生みの親”といわれる、第4代国鉄総裁十河信二氏の銅像と、氏の縁によって国鉄から西条市に寄贈されたSL「春雷号」（C57）がある。氏は明治17年中萩村に生まれ、西条中学に学び、後に新幹線建設構想に尽力した。戦中戦後の大変な時期に第2代西条市長を務め、昭和44年には西条市名誉市民となられ、昭和56年に97歳で逝かれた。この郷土の偉人の功績を顕彰するため、西条駅前に「十河信二記念館」を建設中である。
隣接する旧西条市体育館は、フランスの世界的な建築家ル・コルビュジュに師事した、坂倉準三氏（1901～1969）の設計によるものである。

JR加茂川橋梁

23 JR加茂川橋梁

大正12年竣工の国鉄時代の鉄道橋。302mの加茂川を結んでいるが、2年の歳月を要した難工事であった。橋台は西松組が施工、トラス橋部分は鉄道省の直営であった。

24 東光の石灯籠

旧街道の大町と神戸を結ぶ加茂川の渡船場の常夜灯として、明治4年に作られた。当初は、堤防高が今より低くかったが、改修による嵩上げにより当時とは風景が変化してしまった。傍らには旧加茂川橋の親柱３基も移設されており、交通変遷史のモニュメントとしての価値もある。

東光の石灯籠

25 木喰（もくじき）五行作弁財天尊像

木喰五行は千躰仏を刻む大願をたて諸国を廻った行者で、各地に数多くの木彫仏を残している。
寛政11年（1799年）の伊予訪問は、82歳の五行にとっては2度目の入国であった。三島への途次、洲之内の久門邸に立ち寄り、宿泊のお礼にと彫られたのが弁財天像である。彼の旅日記にも記載がなく、柳宗悦（やなぎむねよし）選集にも漏れた模様。尊像の後側には「日本千体ノ内天一自在法門八十二歳弁財天尊父母安栄ノタメ木喰五行菩薩」の墨書がある。高さ約30cm。五行の弁財天像は外にはなく、希少価値がある。木喰僧のなかでも五行は特に有名。

26 うちぬき公園

加茂川左岸圃場整備事業の完成記念として、平成2年に整備された公園で、農免道路通行車の休憩所になっているだけでなく、遠来から自噴水を汲みに来る人が絶えない。
公園の中央を東西に流れるせせらぎは加茂川を表し、正面の主碑は石鎚を、左側の副碑と右側の改良記念碑は石鎚を囲む連峰を表している。石のテーブルには土地改良前・後の地図を刻んでいる。
うちぬき公園から農免道路を東へ約1.5ｋｍの中西近藤神社近くに、「中西の清水」と「辻の川の湧水池」がある。いずれも地下水自噴池である。

うちぬき公園

27 前神寺

石鉄山金色院といい、本尊は阿弥陀如来。四国霊場64番札所。
もとは石鎚神社の地にあった。奈良時代の役小角（えんのおづぬ）の開創後、弘法大師も石鎚山の弥山にて修行された。桓武天皇の勅願寺で、近郷随一の大伽藍であったが、明治2年から一つ東の谷に移り現在に至っている。
山門の手前に赤銅色の一対の狛犬（こまいぬ）が鎮座している。
また、寛政7年（1795年）伊予路を訪れた一茶が、桜が満開の前神寺で詠んだ句「御百度や　花より出でて　花に人」の句碑が残されている。

前神寺

湯の谷温泉

28 湯の谷温泉

硫化水素を含有する弱アルカリ単純泉。泉温17.5℃。ひなびた田舎の湯治場の雰囲気をよく残しており、長期の湯治客も多い。伊予の名湯の一つ。

橘新宮神社

29 橘新宮神社

洲之内に鎮座する旧村社。高峠城に連なる山裾に位置し、鬱蒼とした木々に囲まれている。境内広場は整備され、高齢者のクロッケー場として利用され、交流の場となっている。

30 高峠城跡

高峠城は高外木、高外岐ともいう。西条市洲之内から中野にまたがる小山脈中の標高232.7ｍの高峠山頂にある。室町初期の頃から河野通直氏の居城であったが、天授5年（1379年）、通直が讃岐細川氏との戦いで討ち死にして以来、細川氏の代官である石川氏が城主となった。

その後、天正10年（1582年）土佐の長宗我部元親に屈し、天正13年（1585年）の秀吉の四国政略で、毛利輝元の旗下、小早川隆景・吉川元長を将とする中国軍の侵攻で落城する。

保國禅寺本堂南の樹木の中に、玉垣を巡らした墓地がある。落城の悲運に遭わず天正12年（1584年）に病死した、城主石川備中守通清の五輪塔である。

市倉のかきのき

31 市倉のかきのき

高速道路南側の市倉ファーム入口に立っている、目通り3.3m、高さ約20m、樹齢350年と推定されるヤマガキの老木。秋になると、枝がしなるほどの実をつけ、その彩りは大変見事である。

松山自動車道建設に当たって除伐されそうになったが、地元の人々を中心に設計変更を強く要請し、木を残す工法がとられ、現在もスックと立ち凛々（りり）しい姿を残している。

地元では「市倉の大柿」と呼んでいるが、その下を通っている道が昔の「土佐道」で、伊予と土佐の交易路であったと言われている。また、この付近には古代の遺跡も多く、縄文土器や石器（市立郷土博物館所蔵）などが発見された古代文化の里でもある。

32 保國禅寺

保國禅寺は萬年山金光院と称し、臨済宗東福寺派、本尊は阿弥陀如来。奈良時代の創建で、はじめは天台宗であったが、仏通禅師によって臨済宗に改宗された。足利氏や細川氏の帰依(きえ)によって興隆する。
天正13年（1585年）の兵火や文禄4年（1595年）の洪水などで壊滅したが、先人の努力により復興し、今日に至っている。特に、萱葺きの本堂（1750年）は貴重な建造物である。
本堂前には旧西条市の名木50選のソテツが樹勢を増し、すぐ横の高さ約3ｍの堂々とした宝筐印塔(ほうきょういんとう)とうまく調和し、ほどよい景観を見せる。この宝筐印塔は、保國禅寺の大檀那であった久門家十軒屋一類が、寛政5年（1793年）に先祖の供養のために建立したものである。

保國禅寺

33 木造仏通禅師倚像（ぶっつうぜんじいぞう）

像高78.3cmの木像で、肖像彫刻の代表的な仏像である。
倚像はもともと京都・東福寺に安置されていたが、仏通禅師が保國禅寺中興の開山であるため、江戸時代末期に保國禅寺に移されたものである。像の地肌が黒光りしていることから、俗に「黒仏さん」と呼ばれている。円頂肥満の安定した堂々たる像容を示し、東福寺管長であった傑僧の風格をよく再現している。左右対称の安定感があり、量感も充実し、立体感あふれた写実的表現である。84歳で没するまでの人生を深く見つめ、求道に一生を捧げた禅師の人格が躍如としている。
昭和45年11月、アメリカのボストン美術館に日本の代表仏像として出展された。
また、東京国立博物館（平成19年7月31日から9月9日まで）と九州国立博物館（平成20年1月1日から2月24日まで）で開催される「京都五山　禅の文化」展に出展されることになっている。
保国禅寺所蔵、国指定重要文化財である。

木造仏通禅師倚像

34 保國禅寺庭園

保國禅寺本堂の裏にある庭園は、蓬莱池泉鑑賞式(ほうらいいちせんかんしょうしき)で、永享年間（1430年頃）の作庭であろうとされている。830㎡ほどの小規模な庭園ではあるが、四国では最古のものである。
本堂は天正13年（1585年）の兵火や文禄4年（1595年）の洪水などの災禍を受けてきたが、庭園はこれらの難を逃れ、禅宗寺院の庭園として幽玄な趣をかもしだしている。石材はいずれも加茂川から採った青石が主材料となっている。正面築山に三尊石、その下に枯滝の石組みを構え、左右の山畔から池辺にわたって多数の石を配し、池中に亀島を置いている。室町時代特有の手法をよく伝えている。国指定名勝。

保國禅寺庭園

伊曽乃神社

35 伊曽乃神社

西条地方の古代文化の発祥の地であり、西条文化のふるさとである伊曽乃台地にこの神社が鎮座している。旧国幣中社に列格されている延喜式の式内大社。

社伝によれば、成務天皇の28年（158年）、武国凝別命の創祀と伝えられる。祭神は、天照大神の荒魂と景行天皇の第12皇子で伊予国御村に領地を与えられた武国凝別命。

神社本殿は神明造、桁行約7m、梁間約4.7mで、屋根は切妻の銅板葺き、千木の先端は水平に切られている。

与州新居系図

36 伊曽乃大社祭礼略図

江戸時代の西条まつりの様子が細かく描かれた絵巻。長さ26.7m、幅35cmで、毛槍を持った多くの奴や鉄砲組、だんじり18台、みこし5台、お供だんじり、舟だんじり、諸道具類のほか、人物も約440人が描かれており、伊曽乃神社の至宝といえる。

また、同じく神社所蔵の「伊曽乃祭礼細見図」は「祭礼略図」よりさらに細かく描かれており、だんじりの上層部の人形の様子などがよくわかる。

37 与州新居系図

新居系図は、新居氏一族である東大寺戒壇院の長老・示観国師凝然が、弘安4年（1281年）、故郷（現今治市）に駐錫中に、伊予の豪族新居氏の家系を消息文の紙背へ詳細に書いたもので、3.6mに余る横系図である。一条天皇（986年～1011年）から後宇多天皇（1274年～1287年）の頃まで、およそ300年にわたって新居氏の家系（12世500人ほど）を書いており、和気系図、海部系図とともに日本三大古系図と呼ばれている。

伊曽乃神社所蔵で、国指定重要文化財。

中野のタラヨウ

38 中野の「タラヨウ」と「ナンテン」

「タラヨウ」は雄木・雌木にわかれている常緑の高木で、紙のなかった昔、仏教の文字をシュロ科の貝多羅樹の葉に書き記したが、この木の葉が広いところから、貝多羅樹の葉にまねて、「タラヨウ」と呼ぶようになったといわれている。このいわれから寺院の庭によく植えられる。中野の「タラヨウ」は伊曽乃神社参道大鳥居の隣に立っている目通り2.6m、高さ約10mの雄木の巨木で、樹齢は明らかではない。

また、「ナンテン」は高さ4m、10本の幹が群生して一株となっている。最大の幹の目通りは0.2m、樹齢250年と推定される老巨木。

ともに、市指定の天然記念物。

39 真導寺跡

現在は薬師堂のみが残っている。本尊は薬師如来の大霊像である。この地は別山ではあるが、応永年間から文禄年間までは（1394年～1596年頃まで）保國禅寺の境内であった。
清和源氏の祖・伊予守入道頼義が当国刺史（しし）に赴任するときに、河野親經と力を合わせて創建したといわれてきたが、発掘調査での土器や出土瓦によると、奈良時代の後半に創建されたものとみることができる。
この堂の山上に、天保年間（1830年～1844年）から西国三十三番の札所を模擬して、石像の観音大士を配安した。春秋には多くの人が巡回し参拝した。現在は神戸長寿会を中心に守られている。

土居構跡

40 土居構跡（どいかまえあと）

高峠城の東の館跡。中野村庄屋久門家が代々住み、建物の保存に努めてきた。中世武家屋敷の遺構とあわせ、県の文化財に指定されている。寛文年間（1661年～1673年）の作とされる庭園も、日本における民家庭園の代表といわれている。

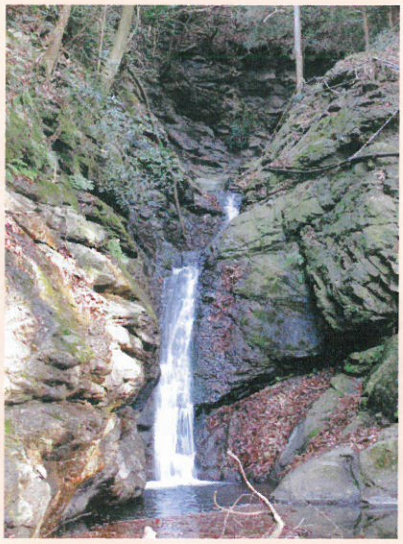
中野地区の石垣と石畳

41 中野地区の石垣と石畳

中野地区中之段・日明界隈は、緩傾斜地にあることから青石の美しい石垣の連なりが各所に見られる。また、敷地へのアプローチとなる坂道にも細かな青石が敷き詰められ、この地域ならではの景観を見せている。

42 津越の滝

古くから奥武丈の景勝地として、市内外からの観光客が多い。鮎返りの滝、雌滝、雄滝。



津越の滝

43 市之川鉱山跡

世界有数の結晶輝安鉱（きあんこう）＝アンチモニーを産出した市之川鉱山も、閉山後長い年月を経て忘れ去られようとしている。小さい坑道は草木に埋もれその所在も分かりにくくなってきたが、「千荷坑（せんがこう）」入り口は交通の便もよく、外観も比較的きれいな状態で残っている。「市之川共仝鉱山、明治廿三年一月」の銘が刻まれている。アンチモニーは砲弾に使用され、この鉱山も戦時中は隆盛を極めた。市街地にこれほど近い鉱山は世界にも類を見ないのではないか。各地に展示されている結晶のうち、大きくて形のいいもののほとんどは市之川鉱山産といわれている。西条市立博物館にも輝安鉱の巨晶があり、特殊な光を当てることで劣化を防ぎながら常設展示している。郷土の誇れる財産である。（高さ45.5cm、重さ13.13kg）

千町の石積千枚田

44 千町（せんじょう）の石積千枚田

千町集落の石積の千枚田は、昭和30年頃は面積が45haほど、1,500枚くらいの石積農地があり、山村風景として大変美しいものがあった。
近年の過疎化高齢化で1／3ほどに減少してしまったが、なお美しい風景である。

45 加茂川水源の森

加茂川の中流、国道194号線沿いにある人工林で、川下に住む住民が加茂川の清流を守るために、放置人工林を貯水能力の高い水源林に転換する作業をボランティアで続けている。
水資源に関心のある人には必見の場所。

大福寺

46 大福寺の柴灯護摩（さいとうごま）と荒川八幡神社獅子舞

大福寺は西暦740年に瓶ヶ森に建立された修験寺（しゅげんじ）であったが、1605年に現在の荒川地区に遷座した。2月上旬と5月上旬に行われる柴灯護摩火渡りには、県内外から多くの参拝者が集う。
大福寺の隣に応神天皇を奉斎（ほうさい）している八幡神社がある。1428年に建立されたが、毎年11月3日の秋季大祭のときに、氏子崇敬者で奉納される獅子舞は荒獅子として有名である。

47 お岩屋さん

国道194号線沿いの荒川地区の旧道に、迫門橋という橋がある。その橋を渡ってすぐの山道を約20分ほど登った所に大きな岩屋があり、仏様が祀られている。
大通寺の和尚密元は徳が高く、その教えを請う人があまりに多く、その煩わしさから逃れるためにこの岩屋にこもった。それでも、猿や鹿などの動物さえここに群れて遊んだといわれる。「密元の窟」とも称される。

迫門橋

48 迫門橋

国道194号線沿いの加茂川の支流・谷川に架けられた開腹式のアーチ型コンクリート橋。昭和26年3月の竣工で、半世紀を超えて、なおすぐれたデザイン性を感じさせてくれる。
傍には昭和初期の「軸道改修記念碑」が建っており、鉱石運搬の軸道であったことを今に伝えている。

49 広域基幹林道「加茂角野線」からの景観

下津池と新居浜市角野を結ぶ舗装した広域基幹林道で、岩山が多く、秋の紅葉と瓶ヶ森が美しく見えるほか、西条市街地を見下ろすこともできる。

止呂峡

50 止呂峡と止呂橋

谷川と吉居川の合流点の渓谷美とその上に架かる橋。春の新緑と秋の紅葉は見事。

51 下津池の棚田

千町からさらに国道194号線を高知方面へ進み、下津池から吉居方面へ行き、二つ目のヘアピンカーブから西の方向を振り返ると、整然とした下津池の棚田が見られる。5月下旬の田植えの頃、水を張った水田に早苗がそよぐ様は感動的である。稲穂が色づく頃や雪の降り積もった風景も捨てがたい。休耕田や耕作放棄地が少なく、千町より状態がいい。
また、下津池の国道194号線沿いには、地蔵堂や木造の旧下津池小学校などが残り、祠、巨樹、萱葺き屋根、そして棚田と、素晴しい景観を見せる。

下津池の棚田

52 風穴と薄雲姫（うすくもひめ）の墓

藤之石風透集落の上部に、地底から吹き出される風穴がある。「大風穴」と「小風穴」の二つがあり、夏は冷風、冬は暖風を出す。また、この風穴に棲んでいたとされる蛇の化身の美男子と美女薄雲姫の恋物語の伝説が残っている。

風　穴

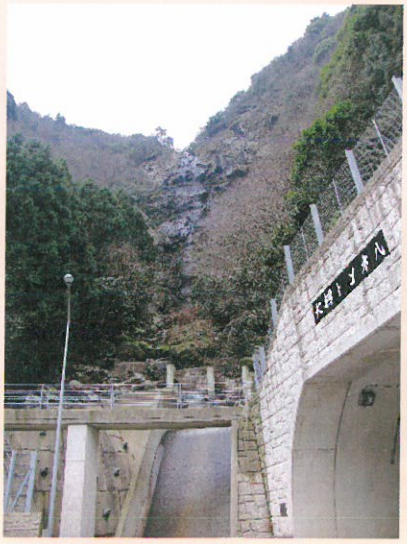
53 チロルの森

高知へつながる国道194号線の谷川渓流沿いにある、地元民間会社経営のテーマパーク・レジャー施設。周囲を山に囲まれ、広い園内には芝生広場や散策路が整備され、ヨーロッパの山間地帯のような風情がある。地ビール工場や手作りパン工房、ソーセージ工房などがあり、食事を楽しむこともでき、多くの観光客で賑わっている。

中之池橋・谷川渓谷

54 中之池橋・谷川渓谷

昭和の初期、加茂地区の鉱石や木材を搬出するために、川来須から船形の間に敷設されたトロッコ森林軌道。ブレーキをかけながら急勾配を下り、帰りは馬で引いて上がっていた。
そのルート上に残る赤色の中之池橋は、その形状が鉄道鉄橋を彷彿させる。下には谷川渓谷があり、産業遺跡の面でも、景観の面でも価値のある地域である。
近くの中之池集会所上に大きな「しだれ桜」がある。



大樽の滝

55 大樽の滝

チロルの森の入口から100m程高知寄りの山側にかかる滝。普段はほとんど水が流れない涸れ滝だが、梅雨や台風時には直下を走る国道194号線まで水しぶきが降りかかって、非常に豪快な風景になる。
また、厳冬期には壁面が凍りつき、氷のベールで包まれる。朝陽に照らされると、キラキラと輝き大変美しい。

56 平松の水

国道194号線の川来須集落の手前の東側の山腹から、年中15℃の地下水が湧き出ている。多くのドライバーや市民が水を汲みにやってくる。

平松の水

57 旧寒風山トンネル

寒風山のふもと標高1,100mの所にある、延長924mの高知県境の道路トンネル。周辺は春は「アケボノツツジ」が美しく、秋は紅葉が美しい。また、空気の澄んだ夜の星空は別世界のような美しさである。

58 新寒風山トンネル

西条市と高知県を結ぶ国道194号線の県境にある、5,432ｍの四国一長い道路トンネル。
避難用トンネルから流出している水は、ナトリウム成分が含まれる冷泉で、風呂の用水として使用している人もいる。

59 上の原のウスギモクセイ

黒瀬湖を東に望む高台の民家の庭にある、市指定の天然記念物。目通り2.46m、根回り2.39m、樹高は日本一の21m。地上1.3mあたりで3本にわかれ、四方に広がっている。

上の原のウスギモクセイ

60 黒瀬湖と周回散策路

昭和48年完成の黒瀬ダムは、県下でも有数の水量豊富なダムであり、西条市の産業発展の礎となっている。湖の周囲は桜と楓の木が植えられており、桜のトンネル、5月の新緑、秋の紅葉と、一年を通して美しい自然と接することができる。カワセミの群れも間近に見ることができ、冬にはオシドリや鴨類なども多く飛来し、バードウォッチングにも最適の場所である。さらに1号、2号公園もあり、ピクニックやハイキングを楽しむにも手ごろな場所となっている。
大保木カルタには「まわれば3里黒瀬ダム」とあり、一周が約12km。ウォーキングもよし、サイクリングもよし。鏡のような水面には、ときに、“逆さ石鎚”が映える。湖を一周する形で黒瀬新四国33番観音が祀られ、参拝者も多く像の前の花が絶えることがない。

黒瀬湖

61 旧大保木小学校跡のソメイヨシノ

旧大保木小学校校門を入ってすぐの所にあるソメイヨシノは、西条市指定の天然記念物。地上1mの所で周囲が2.55mあり、高さ1.3mの所で幹が3つに分かれている。
大保木小学校の歴史とともに育ち続け、多くの児童の入学を迎え、巣立つ姿を見送ってきた。卒業生にとっては忘れることのできない木である。今も花の季節には、地域の人々や出身者がこの木の下で旧交を温めあう姿を見ることができる。

62 治兵衛堂

藩政時代、米の取れない大保木地区では、村人が過酷な年貢米の取立てに困り果てていた。1664年11月、見かねた中奥の庄屋工藤治兵衛が代表となり、年貢を銀で納められるよう西条藩主に直訴した。訴えは認められず、家族ら16人が捕らえられ処刑された。しかし、7年後に銀納が認められ、村人は治兵衛への感謝の思いから、「銀納義民」と称して、お堂やお墓を造り供養した。
340年余り過ぎた今も、治兵衛堂には花が絶えず、村人の感謝の気持ちが途切れることはない。毎年8月16日には村の人たちによって供養祭が行われている。

治兵衛堂

極楽寺の石段

63 極楽寺と石段

県道からよく見えるのは別院で、そこから約160m上に周囲の景観とうまく調和した極楽寺本坊がある。周囲には紅白の梅林があり、ウグイスのさえずりも聞くことができる。その名のとおり、まさに“極楽”気分に浸れる。
別院と本坊を結ぶのは急勾配の330段の石段。これほど連続した石段路は珍しい。手すりに掴まり、一段一段登れば思ったよりは安全に登れる。是非一度チャレンジを…脚に自信のない人には楽な迂回路もある。

石鎚ふれあいの里

64 石鎚ふれあいの里

中奥地区・旧高嶺小学校跡地に、宿泊施設、ケビン、キャンプ場、バーベキュー棟、遊具などが整備された「石鎚ふれあいの里」がある。すぐ下の川には青石とよくマッチした美しい清流のせせらぎがあり、夏には子どもたちの格好の遊び場となる。また、夕方のカジカの鳴き声は郷愁をそそる。渓流と緑、四季折々の自然美は、訪れる人の心を癒してくれる。
4月中旬には、地域の人々が中心となって「山菜まつり」が開催される。付近の山を散策しながらの山菜採りや薬草風呂、よもぎの餅つきなど様々なコーナーがあり、来場者を楽しませる。中でも、山菜の天ぷら試食コーナーは揚げたて新鮮を堪能できるとあって、行列ができるほど。

65 カズラ細工

ツヅラやアケビの蔓を近くの山で採取して、水や湯に浸け、軟らかくして敷物やカゴを編む「カズラ細工」。戦前は生活に必要なカゴ、ザル、農具の類を各家で作っていた。時代の変遷により、近年は趣味の品を作るようになってきた。対象は変わっても、こうした手仕事の技術は後世に残し伝えていきたい。公民館のサークル活動でも、この取り組みに重点を置いている。

千野々橋

66 千野々橋

大保木地区の中心部、中奥の加茂川に架かる鋼鉄製の赤い橋で、通称「赤橋」。近年上流部にコンクリート橋が架かるまでは、人も車もすべてこの橋を渡っていた。今は石鎚ふれあいの里へ行く人が多く利用している。レトロな趣のある「プラット・トラス橋」の鉄橋で、このタイプとしては県内では現役最古。
右岸上流側の榎の大木には、旧橋（吊り橋）の縄目の跡が残っている。

57 シャクナゲの森公園

黒瀬峠から約10km、横峰寺林道の終点附近、海抜750mのところにあるシャクナゲの森公園からは、石鎚山、道前平野、瀬戸内海、しまなみ海道まで、雄大な眺めを一望できる。晩春には可憐なシャクナゲの花が咲き誇り、訪れる人の目を楽しませてくれる。ドライブでもウォーキングでも、気軽に森林浴が楽しめる。

三碧峡渓谷と河口橋

68 三碧峡渓谷、河口橋と手掘りトンネル

清流、青い岩石、四季折々に変化する樹木の美しさ、特に秋の紅葉の美しさは格別である。この三碧峡渓谷には、大正14年に架設されたＲＣ造上路式アーチ橋・「河口橋」が残っている。この橋は現在は廃道となっているが、この形式の橋は県下では11橋、竣工時期は4番目に古い。橋のすぐ下流には、その難工事を窺い知ることのできる二つの手掘りトンネルも残っている。

69 石鎚スキー場とスノーカーニバル

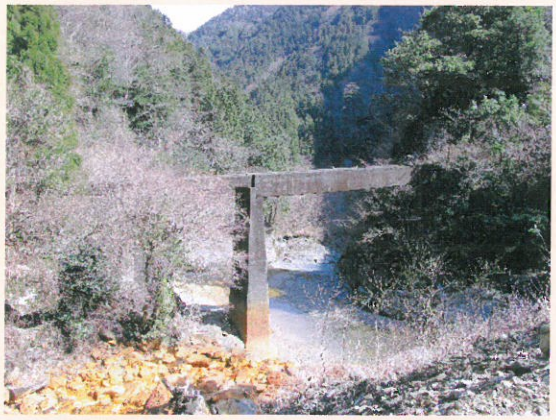
石鎚山の中腹1,400m付近は市街地より約10℃気温が低く、雪質に恵まれたスキー場である。自然雪が少ないときでも、造雪機で雪を降らせることが可能で、12月中旬から3月中旬までスキーやスノーボードを楽しむことができる、南国愛媛の数少ないスキー場の一つである。
毎年12月にはスキー場のピクニック園地で、雪遊びの祭典・「スノーカーニバルin西条」が開催される。そり競争、宝探し大会、親子スキー・スノーボード教室などの雪遊びが満喫できる。

雪遊びの祭典・スノーカーニバル

70 大宮橋とその周辺

旧高宮小学校跡の入口に架かる、ギリシャ建築様式を模したコンクリート製の橋。コンクリート製というと無機質な感じがするが、デザインに凝っており、このようなところに何故と驚くほどにロマン溢れる橋である。昭和2年に竣工され、橋長43.9mの「コンクリート造開腹式上路アーチ橋」。この造りは県下で5例しかなく、規模では最大、竣工時期も2番目に古い。後世に残したい貴重な土木遺産である。平成17年には、土木学会からその優雅なデザインが近代土木遺産として認定された。
近くには大宮神社があり、その境内には多くの杉や桧の巨木がある。特に、樹肌に玉目模様が浮き出る「玉目ケヤキ」の大木が数本あり、地域のシンボルとなっている。

大宮橋



森林軌道跡

71 森林軌道跡

名古瀬谷の上流・赤谷から、延長約2km、幅員2mの森林軌道が今も残っている。昭和12年頃西条営林署が建設したものである。下流側は林道に改良されているが、赤谷には長さ約40m、幅員2mのＲＣ造の軌道専用橋が今も残っている。この橋はやや下り勾配であるため、行きはブレーキをかけながら、帰りは人力で押しながら、木材や木炭を満載したトロッコが毎日走っていた。林業が盛んであった往時が偲ばれる近代化遺産である。

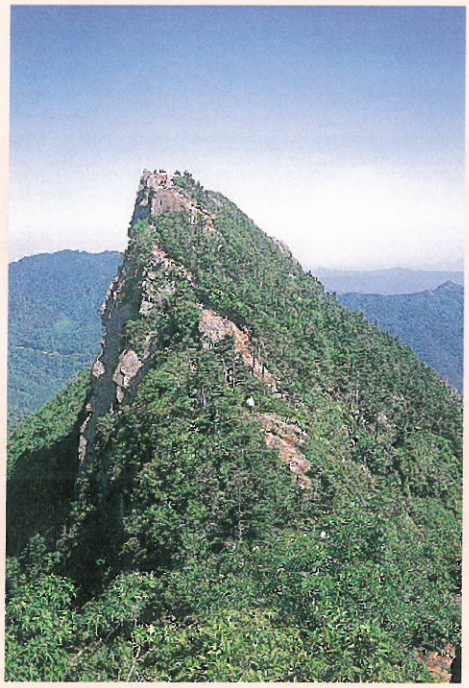
瓶ヶ森から眺める石鎚山

72 瓶ヶ森から眺める石鎚山

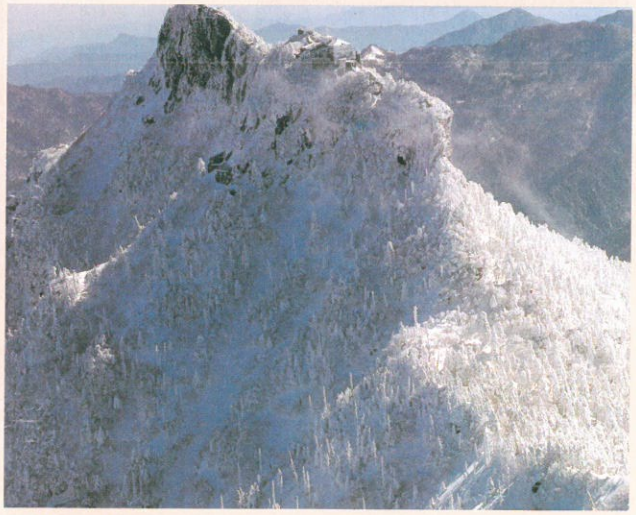
霊峰石鎚はどこから見ても美しいが、向かい合わせの位置にある瓶ヶ森の山頂（女山）からの眺望はまた違った趣がある。朝焼けに染まる姿、雲海に屹立する姿、白骨林ごしに見える姿など、様々な姿を見ることができて素晴しい。宿泊して、早朝の雄姿を是非一度…

73 石鎚山

標高1982ｍ、西日本最高峰を誇る。日本七霊山や日本百名山の一つに数えられ、古くから信仰の山として知られている。毎年7月1日からのお山開きは、全国各地から数万人の信者、登山客で賑わう。春は高山植物、夏は登山や野外活動、秋は紅葉祭り、冬はスキーと一年中楽しめる。
そして何より、誰もが認める西条市のシンボルである。



石鎚山



雪の石鎚山

トリム公園の桜

金剛院山門

春雷号

市之川鉱山跡（伊藤武平翁頌功碑）

チロルの森

新寒風山トンネル

黒瀬ダム公園